

移植用臓器の搬送と小型航空機

世界最大の米国市場における「臓器搬送」需要

業界のトピックをご紹介する事を企図してお送りしている本書ですが、4月は**移植用臓器の搬送と米国の航空会社**についてご紹介します。

■ 臓器移植の市場規模

臓器移植の**世界市場は年平均成長率 (CAGR) +9.7%で成長し、2031年に905億米ドルに達すると予測されています**。末期腎疾患につながる糖尿病や高血圧等の急性疾患の発生率の増加や臓器不全の増加等が主な要因として挙げられます。

■ 世界最大の米国市場

臓器移植数で**世界最大の米国市場は、2022年で43,743件と2014年同期比で+44.5%と年々増加しています**。また、臓器移植待ちの患者数**103,384人 (2024年2月1日時点)**に対し、臓器移植の割合は42.3%と、圧倒的にドナーが不足しています。こうした背景から、米国下院は、**2023年に連邦航空局 (FAA) 再承認法案**として、民間航空システムを通じたドナー臓器輸送の効率化を目的とした条項を承認しています。

■ 航空機の「臓器搬送」需要

臓器移植待ちの患者が増加傾向にある為、**臓器搬送用の小型航空機による航空便需要は今後も拡大する事が見込まれています**。臓器幹旋機関 (OPO)^{※1} によれば、臓器取得には**数百マイル (1mile=約1.6km) 以上の長距離輸送も多く、一刻を争う臓器搬送には航空機搬送が欠かせません**。

■ 米国の航空機臓器搬送

広大な国土を有する米国の臓器搬送は、**中長距離 (空港と空港) を担う航空機**、短距離 (空港と医療機関) を担う救急車に、複数の交通機関と運行管理システムを連携させた「**マルチ・モーダルシステム**」の構築が必要不可欠です。また将来的には**貨物eVTOL**も臓器搬送の手段に加わる事が想定されます。弊社は当該「**臓器搬送**」の分野に強みを持つ航空会社と積極的に連携し、臓器搬送等の医療分野において社会に貢献し、人々の生活向上に資する航空機リースの組成を推進して参ります。

ITCは「公共性」・「社会貢献性」の高いリース事業を法人・個人の投資家様にご提供して参ります。ご関心をお持ちいただけましたら、是非ご連絡ください。

※1 臓器幹旋機関 (OPO) : 1984年制定の全国臓器移植法 (NOTA) により設立された全米臓器分配ネットワーク (UNOS) が認証した全米に58ある非営利組織で、死亡ドナーから臓器を回収し、移植手術につなげる役割を果たしています。

参考: 全米臓器分配ネットワーク (UNOS)、航空会社等、各社ウェブサイト

